

第57回 卒業生



第57回 卒業生のみなさんへ



第57回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが入学された2019年は、私にとっても校長になった最初の年で、皆さんとともに沢山の学校行事を初めて経験した大変貴重な1年間でした。2020年からの2年間は、新型コロナウイルス感染症の流行により、人々との直接の関わりや集団での行動が制限されました。思うようには活動できませんでしたが、オンラインでの授業が始まり、ひとりで学びゆっくり考える時間が増えました。

看護においては、さまざまな人々と意思疎通をはかる「コミュニケーション能力」が求められます。患者の意思を確認することは勿論のこと、多職種のスタッフと連携をとるため、相手の話を「正しく理解する力」と相手に「正しく伝える力」が必要です。

患者の様子を見て、ちょっとした変化にも気づくことができる「観察力」と、患者の気持ちをイメージする「想像力」も必要です。常に自ら考えて行動し、ちょっとした患者の変化にいち早く気づくことが大切です。

よい看護の実践には、「自分自身が健康である」ということが大前提となります。看護という仕事は、日々、緊張感やストレスにさらされるので、仕事以外の時間にリフレッシュすることも大切です。日ごろから、オンとオフを上手に切り替えてストレスを発散して下さい。

新たな旅立ちを迎えた皆さんが、心身ともに健康で、思いやりのある、やさしい看護師として活躍されることを願っています。

# 1年生



入学式を迎えた4月からの1年間、学ぶことのできる有難さを感じました。新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が中止となりましたが、そのような中でも戴帽式や基礎看護学実習を行うことが出来ました。看護師を目指すものとしての決意や実際の看護、患者さんとのように向かい合うのが、何が自分に足りていないかなど経験から学ぶことができました。また、課題やテストなど、勉強量が増えていくことによって、看護の厳しさを身にしみて感じる事ができ、これからの勉学により力を入れようと目標を立てることができた1年でもありました。

今年1年間で学んだことを活かせるよう、これからの学べる機会を大切にしていきたいです。

59回生代表 村田 怜菜



# 3年生

3年次では、実習や講義など様々な事に全力で挑みました。すべての実習が終了してからは、看護師国家試験の勉強に本格的に取り組み、放課後も遅くまで残って、先生方や家族、仲間に支えていただきながら勉強しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大で全員が集合できない中、W方から温かいメッセージを頂いたりして、自信と勇気を持って看護師国家試験に臨むことができました。試験本番では環境こそ違えど、周りに仲間がいることの安心感に包まれ自分の全力を尽くせ

仲間を支えられ、勉強に実習に、国家試験に取り組み充実した3年間だったと思います。

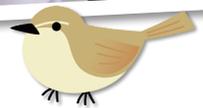
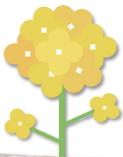
57回生 西宮 梨央

# 2年生

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実習や行事など思うように取り組めない事がありました。その中でも先輩方は今出来ることを真剣に考え、実習や学校生活、寮生活など臨機応変に対応されていました。私たちもその姿勢に感化され、学習や生活など、乗り越える事が出来たと感じております。

現在の学校生活と同様に、臨床の場でも通常通り立ち行かない事は多く、対応していく必要があります。これまでの多くの経験を活かし、今後先輩方がそれぞれの臨床の場で活躍されることをお祈りいたします。

58回生代表 松本 有紗



# 卒業生より

手術室

林 七海 55回生



私は、当校卒業後、呉医療センターに就職し、現在手術室で勤務しています。就職して約2年が経ちますが、今でも新しく学ぶことが多く、日々勉強に励んでいます。手術は患者さんにとって人生の中で一大イベントです。命に直結している場であり、常に責任感や緊張感をもって臨んでいます。手術室は二人一組になって看護をしており、ペアになる事で相談しやすく、わからない事があれば一つずつ丁寧に教えてくださり、とてもやさしく明るい雰囲気部署です。呉看護学校の講義・実習で学んだ知識・技術は臨床現場で活かせることがたくさんあるので、学生時代に頑張ったよかったと思うばかりです。また、日々手術室看護の魅力を感じながら、楽しく学ぶことができます。

学生の皆さん、試験に実習に大変な事が多いと思いますが、就職したときにその努力は無駄にならないと私自身感じています。また、新型コロナウイルス感染症も流行しているので、体調には気を付けて頑張ってください。

9B病棟

河本 真子 56回生



私は呉医療センターに就職し、現在は9B病棟で勤務しています。9B病棟は血液内科の病棟になっており、化学療法や移植（骨髄移植、臍帯血移植、自家移植）に関わる事が多いです。移植は命に係わる大きな治療で、患者さんの精神的なサポートも大切になります。配属された当初は、患者さんとの関わり方や観察すべき点等、わからない事や不安な事ばかりでしたが、先輩方が丁寧に教えてくださり日々、少しずつではありますが成長を実感しています。そして、患者さんに関わる中で、看護師という仕事の幅の広さに看護の重要性、魅力を感じています。

業務に追われ、患者さんに思うような関わりができない事や精神的側面のかかわり方に悩む日々ではありますが、先輩方や同期にアドバイスをもらいながら頑張ることができています。今年も新型コロナウイルス感染症で実習が中止となり、不安なことも多いと思いますが、皆さんも先生方や同級生を頼り、協力して、助け合いながら頑張ってください。

## 編集後記

卒業生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？皆様の職場やご家庭でも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な影響があったのではないのでしょうか。呉看護学校では、今年度も多くの行事が中止・縮小開催となりました。また、実習においても延期や学内での実習となり、臨床での実習は貴重な経験となりました。

新型コロナウイルス感染症がまだまだ落ち着かない状況にはありますが、今の時代に求められる看護師を目指して、確実な知識・技術を提供できるよう、前向きに歩むことができればと思います。

また、この学校に長い間寄与くださいました山下副学校長先生が3月で学校を退官されます。心より感謝申し上げます。先生の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

編集長 福嶋 洋子  
編集委員 東 活年



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター附属呉看護学校

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1 TEL.(0823)22-5599/FAX.(0823)22-5646

URL <http://www.kure-nh.go.jp> E-mail [kuregaku@sc.kure-nh.go.jp](mailto:kuregaku@sc.kure-nh.go.jp)